野木小学校だより
野ぎくの子
校長室から　2023/3/24

２０２２年度　学校教育目標

「自ら問い　自ら考え　自ら行動する」

【めざす児童像】
よく考える人・自分や人を大切にする人・チャレンジする人

第114回卒業証書授与式
はなむけの言葉（校長式辞）

やわらかな日の光が降り注ぎ、日ごとに春の息吹が感じられる頃となりました。

この佳き日に、若狭町教育委員　岡　勝之様をはじめ、御来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに第百十四回若狭町立野木小学校卒業証書授与式を挙行できますことを心から感謝いたします。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

野木小学校を巣立ちゆく十二名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

先ほどは一人一人に卒業証書を手渡しました。卒業証書を受け取る皆さんの瞳は、緊張の中にも希望にあふれてキラキラと輝き、とても立派な姿でした。皆さんが手にした卒業証書には、この六年間のうれしかったことや楽しかったこと、悔しかったことや悲しかったことなど、たくさんの思い出が織り込まれています。また、それと同時に、これまで温かく見守ってくださった御家族や地域の方々、教え導いてくださった先生方など、たくさんの人達の深い愛情が込められていることも忘れないでください。

皆さんの小学校生活後半の三年間は、思いがけない新型コロナウイルスの感染拡大による、約三か月にもわたる長い休校や、数々の行事の中止、マスクの着用など、様々な制限の中での生活となってしまいました。感染が始まった頃は、まさか三年後の現在まで引きずることになるとは思ってもみませんでした。しかし、その長いトンネルもようやく出口が見え始め、今年度は三年ぶりに町の陸上記録会や音楽会、そして県外への修学旅行を行うことができ、皆さんの生き生きと活躍する姿を目にすることができました。また、これも三年ぶりに、夏休みには六年生の親子行事で学校での宿泊が行われました。私はその様子を垣間見ただけなのですが、肝試しや花火大会、夏祭りなど、みなさんの本当に楽しそうな笑顔があふれていましたね。さらに、活動をサポートしながら一緒に楽しまれる保護者の皆様の真心と熱いハートが伝わってくる一時でもありました。

さて、この三学期に、私はみなさんの教室で三回にわたって道徳の授業を行いました。その中で、

「自分を叱ってくれる人に感謝しよう。」

「いじめに負けない強い心と体を持とう。」

「何になるかよりもどう生きるかを考えていこう。」

などということを話しました。

この卒業式が、みなさんに私の思いを伝える最後の場となりますが、ここでは「泥かぶら」という昔話をしたいと思います。在校生の皆さんもよく聞いてくださいね。

昔、あるところに、一人の顔の醜い女の子がいました。顔はいつも薄汚れて、かぶらのような形をしていたので、村の子供たちに「泥かぶら」というあだ名を付けられ、石を投げつけられたり、つばを吐きかけられたりしていじめられていました。しかし、泥かぶらも負けてはいません。いじめられると石を投げ返したり、竹の棒を振り回したりして仕返しをしていました。そんなある日のこと、一人の旅のお坊さんが通りかかり、その日もいじめっ子を相手に暴れて、顔も心もとげとげしくなり、独りぼっちになっていた泥かぶらにやさしく話しかけました。

「おまえがそんなにくやしいなら、きれいになる秘訣を教えてあげよう。これから言う三つのことを、来る日も来る日も守ってみなさい。そうすれば、お前はきっと、村一番の美人になれるじゃろう。」

その三つというのは、一体どんなことだったのでしょう。それは、

・いつもにっこり笑うこと
・人の身になって思うこと
・自分の顔を恥じないこと

でした。この三つを守れば、村一番の美人になれるというのです。泥かぶらは、きれいになりたい一心で、お坊さんに言われたことを守りました。何を言われても、どんないやなことをされても笑顔を絶やしませんでした。どんな意地悪をされても、困っている村の人を見かけたら助けました。さらに、他の子と比べて自分は醜いからだめだと思わないようにしました。泥かぶらにとっては、毎日が自分との闘いの日だったのです。そして、何年も何年もたったある日の夜、月の光に照らされている水たまりに、そっと自分の顔を映してみると、なんともやさしく美しい顔が水に映し出されていました。泥かぶらはとうとうみんなから「仏様のように美しい子」と言われるようになったのです。

このお話は、私たちに大切なことを教えてくれます。たとえ辛くて悲しい時でも、笑顔や人への思いやりの気持ちを忘れないこと。人と比べるのではなく自分に自信を持つこと。これらが人を美しく磨いていくのです。そしてそれだけではなく、周りの人たちにも笑顔や優しい気持ちが伝わっていくのです。

みなさんは四月から中学生になります。中学校では、多くの友達や先輩、先生方との出会いが待っています。そんな中で、時には思うようにいかなくて落ち込むこともあるかも知れません。しかし、そんな時こそが、ン実は自分を磨く大きなチャンスなのです。世界に一人しかいない自分の自分らしさを大切にしてください。そして、泥かぶらのように素敵な笑顔と優しさを周りに振りまいてください。

いつも明るいあいさつを欠かさず、そうじや集団登下校、体育大会などの行事で、低学年の子にやさしく教え、休み時間には仲よく遊び、在校生から慕われていたみなさんなら、必ずできると確信しています。

結びになりましたが、保護者の皆様、本日は本当におめでとうございます。お子様が立派に成長されたことを、心からお慶び申し上げます。この六年間、さぞかし御苦労もあったことと思いますが、今日この晴れ姿を御覧になり、胸にこみあげてくるものがおありかと存じます。

また、地域の皆様には長きにわたり、本校の教育に多大なるお力添えをお寄せいただいたことに心から感謝するとともに、これからも子供たちを、「野木の宝」として末永く見守っていただきますようお願い申し上げます。

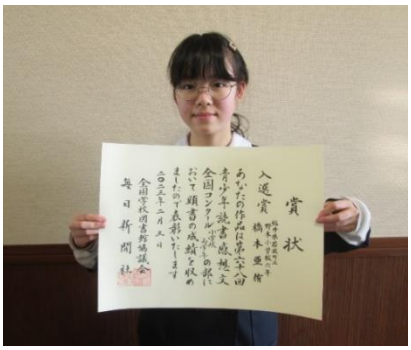
それでは、卒業生の皆さん、新しい世界へ向かって元気に羽ばたいていってください。

皆さんのますますの御活躍を願い、はなむけの言葉といたします。

令和五年三月十六日

若狭町立野木小学校長　　三宅　勝

橋本亜侑さん　読書感想文全国審査で入選！



第６８回青少年読書感想文全国コンクール（全国図書館協議会・毎日新聞社主催、内閣府・文部科学省後援）の福井県審査で、本校６年生の橋本亜侑さんの作品が、県内小学校応募１万７３５９点の中から課題図書で見事最優秀賞に選ばれました。その後、中央審査会（全国コンクール）に送られて審査の結果、入選賞を受賞しました。このほど、校内で表彰を行うとともに、全校児童の前で、その素晴らしい作品を発表してもらいました。

亜侑さんは大変な読書家で、今は週に４～５冊読んでいますが、６年生の初め頃までは、お父さんがパレアで毎週３０冊ほど借りてこられて、それを読んでいたそうです。

亜侑さんのおすすめの本は、**『ふしぎ駄菓子屋　銭天堂』**シリーズ、**『ラストで君は「まさか！」と言う』**シリーズなどです。

幸せな生き方

「生きる意味ってなんだろう」

この本を読んで出てきた疑問です。

この話は、おじいちゃんとその孫のみずほのやりとりを中心に、おじいちゃんの病気が分かってから亡くなるまでが書かれていました。主人公のみずほは、おじいちゃんのことが大好きでした。みずほのおじいちゃんは、町のボランティアをしたり、友達と絵のサークルを立ちあげたりして、とても活動的な人です。家の庭の花の手入れや、身だしなみもきちっとしていることから、とてもかっこいいおじいちゃんなんだろうなと想像しながら読み進めました。

そんなおじいちゃんの様子がいつもと少しちがうことに気が付いたのはみずほでした。病院で検査をしてもらうと、がんの再発だったのです。そこまで読んだ時、私はひいおじいちゃんのことを思い出していました。私のひいおじいちゃんも、みずほのおじいちゃんと同じ病気でした。病気になるまでは、ご飯をたくさん食べて、八十才前まで仕事をしていた元気なおじいちゃんでした。私たちが会いに行った時は、すごく喜んでくれてたくさん話をしたけど、すぐにつかれてベッドに横になったり、ごはんの量もどんどん減ったりしました。私たちが会いに行くと、とても元気にしていたけど、その次の日はつかれて一日中ねていることを知ってからは、会いに行く回数を減らしました。さみしかったけど、そうすればつかれることも減って、少しでも長く生きてもらえると思ったからです。

みずほも同じで、長生きできるように、おじいちゃんに治りょうをしてほしいとお願いしました。でも、おじいちゃんは、治りょうをしないという考えを変えませんでした。家族だったら、一日でも長生きしていてほしいと思います。でもおじいちゃんの考え方は、治りょうをすれば長生きできるかもしれないけれど、副作用で今まであたりまえにしていたことができなくなる生き方ではなくて、今のくらしを大切にしながら、生き続けていきたいという考え方でした。また、このようにも言っていました。「死んだらおしまいとは思うてない。生きることのつづきに死があると思うから」私はこんな事考えたことがありません。死んだらおしまいだと思ってきました。だから死はこわいし、周りの人みんなが長生きしてほしいと思っています。

おじいちゃんは家族みんなに見守られて亡くなりました。死という別れはとても悲しいけど、みずほの家族からは悲しさよりも何となくあたたかいものを感じました。もういないけど、おじいちゃんのことを思いながら過ごしているみずほの家族の心の中には、しっかりとおじいちゃんがいると思いました。

生きる意味、まだ私にはしっかり分からないけど、おじいちゃんの生き方に触れて、自分の命が終わる時まで、前向きな気持ちで過ごすことが、自分も周りの人も幸せにする生き方なのかもしれないと思いました。

亜侑さんがこの感想文を書くために読んだ本　→

『リンゴの木を植えて』　大谷美和子　作

退職・転任のごあいさつ

藤本　耕基　教頭（福井県教育庁へ転任）　在任期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日

野木小学校での 3 年間、本当に幸せでした。素直で何事にも力いっぱい取り組む子どもたちと一緒に学習できて、子どもたちの成長を感じることができました。保護者、地域のみなさんにもたくさん助けていただきました。私は 4 月より県教育庁勤務となりますが、野木小で学んだこと、経験したことを生かして頑張ってきます。地域の皆様、今後も野木の子どもたちのためにお力添えをお願いします。ありがとうございました。

高橋　弘樹　教諭（熊川小学校へ転任）　在任期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日

３年前、野木小に来たときはコロナ禍の休校中で、子どもたちは自宅待機でした。当時の５年生担任（現中 1）となったものの、顔を見ることもなく「まず自宅に電話をして、元気かどうかを確かめる」、という不思議な出会いからのスタートでした。今は毎日子供たちの顔を見て授業ができ、とてもうれしいです。今年度は４年生担任。元気すぎて、元気が売りの私も押され気味でしたが毎日が楽しかったです。熊川でもがんばってきます。

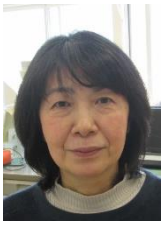
泉　綾子　教諭（鳥羽小学校へ転任）　在任期間：令和2年4月1日～令和5年3月31日

野木小学校に赴任した３年前。野木っ子のきらきらした瞳に、これから始まる新生活への期待が膨らんだのを覚えています。赴任した時に野木小学校の校歌が素敵だ、という話をしました。その校歌の通り、「心に太陽・希望・自信輝き」「歌って・おどって・学んで楽しい」野木小学校が大好きになりました。元気で明るく、一生懸命な子どもたちと、いつも温かく声をかけてくださり、見守ってくださる野木地区で過ごした３年間は私の宝物です。本当にありがとうございました。

小嶋　麻純　事務職員（鳥羽小学校へ転任）在任期間：平成26年4月1日～令和5年3月31日

平成 26 年から、産休、育休期間を含めて９年間、野木小学校でお世話になりました。事務職員の仕事は、来客、電話の対応や教育活動に必要な物品の発注、学校の環境整備など縁の下の力持ちのような仕事です。野木の子ども達は、登下校時、職員室に元気に挨拶をしてくれます。その挨拶を聞いていると今日１日頑張ったなとほっとします。これからも素晴らしい伝統を引き継いでください。長い間、ありがとうございました。

日比　裕子　学習支援員（退職）　在任期間：令和3年4月1日～令和5年3月31日



この３月末をもちまして学習支援員の職を辞することとなりました。

養護教諭として勤務したこの野木小学校に、縁あって学習支援員として勤務させていただき保護者の皆様、地域の方々には大変お世話になりました。学習支援員としての 2 年間、微力ではありましたが子ども達の輝きや成長の様子を間近で見守ることができ、楽しく充実した日々を過ごさせていただきました。養護教諭としての勤務を含めると通算７年になりますが、温かい地域のなかで明るく素直に育つ野木小学校の児童と共に過ごせたことは、忘れられない思い出となりました。まことにありがとうございました。

～4月のおもな行事予定～

４月　７日（金）　入学式場準備　新５・６年生が９時までに登校
４月　８日（土）　着任式　担任発表　入学式　１１：３０一斉下校（２～６年）
４月１０日（月）　８日の振替でお休み
４月１１日（火）　始業式　１１：３０一斉下校
４月１２日（水）　２～６年給食開始
４月１３日（木）　心電図検査　春休み明け確認テスト
４月１４日（金）　１年給食開始　身体計測
４月１７日（月）　町教育研究会　１３：００一斉下校
４月１８日（火）　全国学力・学習状況調査（６年　国・算）
４月２１日（金）　授業参観　教育懇談会　育友会総会（午後）１４：２５一斉下校
※教育懇談会では午前５時間制の修正案について説明します。なるべくご出席ください。
４月２７日（木）　集金日
４月２８日（金）　春季遠足
４月２９日（土）　昭和の日